

直売所運営にみる現代協同組織と地域社会の協同ネットワークに関する研究：福岡県の事例を中心に

著者	田中 佑佳
学位名	博士（海洋科学）
学位授与機関	東京海洋大学
学位授与年度	2013
学位授与番号	12614博甲第306号
URL	http://id.nii.ac.jp/1342/00000631/

「課程博士」（博士論文審査及び最終試験の結果要旨）

氏 名：田中 佑佳

論文題目：直売所運営にみる現代協同組織と地域社会の協同ネットワークに関する研究
－福岡県の事例を中心に－

博士論文審査：

申請者・田中佑佳は期日前に博士論文を主査・副査に提出。公開発表会を2013年8月20日に東京海洋大学品川キャンパス8号館203号室において17時00分から行った。発表会には、約20名が来聴した。40分間の研究発表を終えた後、20分間、来聴者と申請者との間で質疑応答が行われ、論文内容の論旨の確認が行われた。

直売所はグローバル経済の対抗軸として地産地消の拠点として発展してきた。本研究は、その直売所が近年乱立状況となり、その状況が過当な集客競争をもたらし、様々な弊害を生じさせていることを説き、さらに実態分析を通して協同組合が運営する直売所の在り方について深く考察している。この論の中でとりわけオリジナリティが溢れる点は、協同組合運営下の直売所が単なる商品取引の取引の場としてではなく、組合員の事業参加という視点からさまざまな人の繋がりを創造する場として存在し得るが、現状のような過当競争状況においてはその「協同らしさ」が発揮されないことを、たくさんの実態分析を通して論証しているところである。その上で、この問題を解決するには、直売所間の関係を過当な競争関係から協調関係へと移行させることが肝要であることから、申請者は協同ネットワークの体制づくりが協同組合陣営の喫緊な政策課題であると締めくくっている。本研究は、直売所に焦点をあてながら協同組合研究の領域に価値ある論点を提示しているだけでなく、地産地消研究に対しても新機軸を提示していると、判断される。

審査会では、以上が確認されたが、審査委員からは論文の加筆・修正箇所の指摘および、直売所や協同組合に関する諸概念についての質疑があった。質疑に対する応答は概ね了解された。

その後の審査委員による協議の結果、本提出研究は博士論文としての水準に十分に至っていると結論となった。発表内容についても問題がないとの判断であった。

最終試験の結果要旨：

最終試験は2013年8月20日発表会終了後に行った。主査・副査出席の下、学位取得の必要要件の項目について確認を行った。学術論文（レフリー制）については、博士論文に含まれている内容2編が単著論文として公表済み（田中佑佳：地域漁業研究、pp.1-31, 2013、田中佑佳：協同組合研究、pp.145.156, 2013）である上、非レフリー制の論文3編が同じく単著として公表済み（田中佑佳：漁業と漁協3月号、pp.26-29, 2009、田中佑佳：協同組合経営研究誌『にじ』冬号、pp.116-122, No.636, 2011、田中佑佳：暮らしと協同、pp.46-51, 2013）であること、講演発表については国内発表ではあるが全て単独5回行っていることを確認した。本博士論文の遂行に当たり、競争的資金に応募し、平成23年度JA研究奨励費（50万円）を獲得していること、また合同セミナーへの出席回数は60時間を超えていることも確認した。

語学力については、水産物流通のことでドイツ von Thünen 研究所に聞き取りに行った経験（2010年8月）、テンプル大学の学生20名に対して課外授業を講師として受け持った経験（2012年8月）、JC総研主催のヨーロッパ視察においてICA（国際協同組合連盟）本部（ベルギー）での意見交換の通訳担当を経験（2012年11月）したことから、問題ないと判断した。田中佑佳に対して、論文内容について最終確認のための質疑応答を行い、その内容は十分であった。一方、専門知識については公開発表会（8月20日）当日の質疑や予備審査時でのディスカッションを含め十分であると審査委員一同確認した。

以上から、本学生について論文審査、最終試験とも合格と判定した。